

第6期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第10回全体会 議事概要

日 時 令和6年5月22日（水）10:00～12:00

場 所 しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員 小林会長、伊藤副会長、金副会長、郭委員、申委員、ゼヤー委員、松田委員、楊委員、李委員、
タイン委員、鈴木委員、立川委員、陳委員、ドゥラ委員、原田委員、宗像委員、佐々木委員、
塚本委員、山口委員 19名

欠席委員 長谷部委員、毛受委員、チャン委員、安藤委員、奥田委員、江副委員、ブサン委員、コチュ委員、
叔委員、朴委員、センブ委員、井上委員、守重委員 13名

1 開会

2 報告書（素案）について

- (1) 全体構成
- (2) 審議経過
- (3) 提言

事務局からの説明をもとに、委員から意見をいただいた。

- ・区役所では、コミュニティーや交流の場を聞かれたとき、どのように紹介やアプローチを行っているのか。
- ・大久保のまちには多くの人が訪れる。以前よりはマナーを守っており、商店街の皆さんがいろいろと改善してきていると思う。
- ・実態調査の結果が、新宿区の外国人住民の在留資格や国籍を反映しているのか分かるとよい。
- ・報告書で他の自治体に関する記述があるが、特殊であり他の市の事なので削除してもよいと思う。
- ・「偏見・差別をなくすためには外国人住民が自分たちで評価を上げていかないといけない」との意見がある。すごく重要な意見ではあるが、本文に書いてあると違和感を感じる。差別を受けている側が努力することで差別が無くなると読むと、ひっかかる人もいると思う。
- ・外国人が増えることに関する質問では、日本人はゴミや騒音などの心配ごとが多かった。しかし、他の質問では、実際にトラブル経験は少ないとの結果になっている。これも偏見・差別により、心配が先に立ってしまっていると思う。
- ・「地域の共通言語である日本語を習得することで、国籍や文化の異なる住民同士が互いに理解し合う多文化共生社会が実現することから、外国人住民の日本語学習支援に取り組むことが重要である」という記述に賛同する。
- ・新宿区は外国人コミュニティーが充実しており、区の実情も先進的なのが特徴である。

- ・外国人は「外国人と日本人による協働を増やす」「外国人も意見や提案をしやすくする」の回答が日本人より高い。外国人の積極的な取組に加え、協働する交流・イベントがあるとより参加しやすくなると感じた。
- ・外国人は、銀行の口座をなかなか作ることができない。ビジネスでも生活でも銀行口座が無いと苦勞する。
- ・近年、ネパール人が増えている。ネパール人のイメージが悪くならないように、同じ国籍である我々が頑張らなければいけない。
- ・自分も差別を経験したことがある。集合住宅で、同じエレベーターに乗ろうとしない日本人がいた。また、部屋を借りるときは難しい。
- ・ネパール人が一番不安に思っているのは、ビザのことである。ビザが無いと、いつ返されるか分からない。
- ・日本では、去年の所得を元に税金や保険の金額が決まり、支払わなくてはならない。これは、複雑で分かりにくいので、最初から来年の支払いのためにキープしておくよう教えるとよい。
- ・大久保図書館にはネパールの本を借りることができる。図書館に行くネパール人が増えている。簡単なことではないが、多文化共生プラザと図書館の機能が1カ所にあるとよいと思う。
- ・多文化防災フェスタしんじゅくは、防災と多文化交流を合体させたイベントであった。復活してはどうかと思った。
- ・外国人か日本人かだけでなく、実は日本国籍を取得した外国人も相当数いる。また、住民だけでなく、技能実習生や特定技能、介護とか働いている人もいる。
- ・前回の提言に対する今年を取組の評価や、前回調査と今回調査の変化が報告書にあるとよい。
- ・災害対策に関する日本人の質問で「外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める」が3番目に多いのに対し、他の質問では「外国人との話し合い」を望む日本人は少ない。災害時に協力するためには、普段から関係を作らないといけないのに、回答が逆になっていると感じた。
- ・新宿区は外国人の多い地域と少ない地域もあるので、その地域に合った発展ができる。
- ・日本人にも外国人にもWin-Win（ウィンウィン）にできるものがベスト。
- ・報告書は区長に提出するものであるが、提言の部分で状況説明のみの項目がある。無理に書かなくてもよいが、区に求めるべきことを端的に記述する方が説得力がある。
- ・町会で避難所の訓練をやるが、実際は日本人も外国人も知らない人が多い。町会と学校だけで実施するのは厳しいので、区も関わって試験的に経験を積み重ねていくとよいと思う。
- ・日本語学習について、企業が運営する日本語学校とは別に、日本人と接する機会や、日本人と会話する場を設けるなど、日本語を学ぶ機会が増えるとよい。
- ・行政のパンフレットは日本語と英語のみでもよいと思う。
- ・交流イベントと一緒に、在留資格や医療など、いろいろな相談コーナーがあるとよい。
- ・先週、五月まつりが大久保地域全体で行われた。たくさんの子供たち、日本人も外国人も関係なく、にぎやかで本当に楽しいイベントだと感じた。

- ・大久保地域の町会では、若い人や外国人の加入促進に取り組んでいる。
- ・多文化共生まちづくり会議は発足して10年以上続いている。少しずつだが変わりつつあると感じている。これからも楽しみにしていきたい。
- ・多文化共生は外国人の視点を考えることによって、結果的には日本人の生活を見直すことになると思ひ勉強になる。外国人が困っていることは、実は日本人も同じような問題を抱えている。近所づき合い、挨拶、トラブル、偏見、差別、言葉だって同じだと思う。情報交換、交流・イベント、結果的には現代社会を表していると思う。
- ・この会議はすごく意義があると思うし、自分はどこまで共生ができてきているのか毎回考えさせられている。

3 その他

事務局から次回の開催日程を説明した。

4 閉会